

新約聖書 使徒言行録 2章1節—21節 (新共同訳)

¹五旬祭の日が来て、一同が一つになって集まっていると、²突然、激しい風が吹いて来るような音が天から聞こえ、彼らが座っていた家中に響いた。³そして、炎のような舌が分かれ分かれに現れ、一人一人の上にとどまった。⁴すると、一同は聖霊に満たされ、“霊”が語らせるままに、ほかの国々の言葉で話した。 ⁵さて、エルサレムには天下のあらゆる国から帰って来た、信心深いユダヤ人が住んでいたが、⁶この物音に大勢の人が集まって来た。そして、だれもかれも、自分の故郷の言葉が話されているのを聞いて、あっけにとられてしまった。⁷人々は驚き怪しんで言った。「話をしているこの人たちは、皆ガリラヤの人ではないか。⁸どうしてわたしたちは、めいめいが生まれた故郷の言葉を聞くのだろうか。⁹わたしたちの中には、パルティア、メディア、エラムからの者がおり、また、メソポタミア、ユダヤ、カパドキア、ポントス、アジア、¹⁰フリギア、パンフィリア、エジプト、キレネに接するリビア地方などに住む者もいる。また、ローマから来て滞在中の者、¹¹ユダヤ人もいれば、ユダヤ教への改宗者もおり、クレタ、アラビアから来た者もいるのに、彼らがわたしたちの言葉で神の偉大な業を語っているのを聞こうとは。」¹²人々は皆驚き、とまどい、「いったい、これはどういうことなのか」と互いに言った。¹³しかし、「あの人たちは、新しいぶどう酒に酔っているのだ」と言って、あざける者もいた。¹⁴すると、ペトロは十一人と共に立って、声を張り上げ、話し始めた。「ユダヤの方々、またエルサレムに住むすべての人たち、知っていただきたいことがあります。わたしの言葉に耳を傾けてください。¹⁵今は朝の九時ですから、この人たちは、あなたがたが考えているように、酒に酔っているではありません。¹⁶そうではなく、これこそ預言者ヨエルを通して言われていたことなのです。¹⁷『神は言われる。終わりの時に、／わたしの霊をすべての人に注ぐ。すると、あなたたちの息子と娘は預言し、／若者は幻を見、老人は夢を見る。¹⁸わたしの僕やはしたためにも、／そのときには、わたしの霊を注ぐ。すると、彼らは預言する。¹⁹上では、天に不思議な業を、／下では、地に徴を示そう。血と火と立ちこめる煙が、それだ。²⁰主の偉大な輝かしい日が来る前に、／太陽は暗くなり、／月は血のように赤くなる。²¹主の名を呼び求める者は皆、救われる。』

新約聖書 ヨハネによる福音書 15章26節—27節と16章4節b—15節 (新共同訳)

²⁶わたしが父のもとからあなたがたに遣わそうとしている弁護者、すなわち、父のもとから出る真理の霊が来るとき、その方がわたしについて証しをなさるはずである。²⁷あなたがたも、初めからわたしと一緒にいたのだから、証しをするのである。

⁴「初めからこれらのことを言わなかったのは、わたしがあなたがたと一緒にいたからである。⁵今わたしは、わたしをお遣わしになった方のもとに行こうとしているが、あなたがたはだれも、『どこへ行くのか』と尋ねない。⁶むしろ、わたしがこれらのことを話したので、あなたがたの心は悲しみで満たされている。⁷しかし、実を言うと、わたしが去って行くのは、あなたがたのためになる。わたしが去って行かなければ、弁護者はあなたがたのところに来ないからである。わたしが行けば、弁護者をあなたがたのところに送る。⁸その方が来れば、罪について、義について、また、裁きについて、世の誤りを明らかにする。⁹罪についてとは、彼らがわたしを信じないこと、¹⁰義につ

いてとは、わたしが父のもとに行き、あなたがたがもはやわたしを見なくなる
こと、¹¹ また、裁きについては、この世の支配者が断罪されることである。

¹² 言っておきたいことは、まだたくさんあるが、今、あなたがたには理解
できない。¹³ しかし、その方、すなわち、真理の霊が来ると、あなたがたを
導いて真理をことごとく悟らせる。その方は、自分から語るのではなく、聞
いたことを語り、また、これから起こることをあなたがたに告げるからであ
る。¹⁴ その方はわたしに栄光を与える。わたしのものを受けて、あなたがた
に告げるからである。¹⁵ 父が持っておられるものはすべて、わたしのもの
である。だから、わたしは、『その方がわたしのものを受けて、あなたがたに
告げる』と言ったのである。」

説教「真理の霊」

今日は「ペンテコステ礼拝」の日です。ペンテコステとは、ギリシア語で
「50日目」を意味します。

イエスの復活から 50 日後の五旬祭の日に集まって祈っていた弟子たちの上
に、約束通り神からの聖霊が降（くだ）った出来事を覚えるのが聖霊降臨日
です。キリストによって聖霊の力に満たされ、様々な国の言葉で話すよう
になった弟子たちは、宣教のために世界中に散らばりました。そのため、ペン
テコステは「教会の誕生日」とも言われます。

聖霊が降った時、炎のような舌が弟子たち一人一人の上にとどまったことから、
ペンテコステを象徴する色は赤となりました。赤は聖霊の炎と、聖霊を
受け世界に福音を宣べ伝えた弟子たちを象徴する色です。私たちにあってペ
ンテコステは、聖霊の炎に満たされた希望の日です。

さて、本日の福音書は、イエスが十字架の苦難に向かう直前の最後の晩餐で、
弟子たちに語った「決別説教」と呼ばれるイエスの教えです。この時イエス
は、自分が地上を去ったのちに、弟子たちに聖霊を送るという、この聖霊降
臨・ペンテコステにつながる約束をされました。

「決別説教」と呼ばれる生前のイエスの最後の説教は、イエスと弟子たちと
の地上での別れを意味しました。弟子たちと食事を共にするのも最後であっ
た晩餐においての、このイエスの教えは「心を騒がせるな。神を信じなさい」
という言葉から始まりました（ヨハネ 14:1）。

イエスが捕えられ十字架に付けられる直前の、この時の弟子たちが置かれた
状況は、まさに不安や恐れや動揺に、心を騒がせずにはいられない状況でし
た。

それまでずっと生活を共にし、親密な関係の中を生きてきたイエスと弟子た
ちとの間に、にわかに別離の時がしのびよっていたのです。

イエスはこの最後の晩餐で、弟子たちに、自分がいなくなったのち、真理の
霊があなたがたと共に、イエス・キリストについての証しをするのだと言

ました（ヨハネ 14 章）。これは、弟子たちがイエス・キリストについて証しをする時は、聖霊が共に話してくれるのだ、という約束です。

それは、イエスのことを証しするのは弟子たちであっても、弟子たちの人間的な努力や能力にかかっているのではなく、そこに聖霊の力が働くのだということです。

「初めからこれらのことを言わなかったのは、わたしがあなたがたと一緒にいたからである」とイエスは弟子たちに言いました（ヨハネ 16:4b）。

今やイエスが弟子たちと地上で共にいる時が終わるので、新たなる時に向けて、まだこれまでは話していなかったことを、ついに弟子たちに語り始めたのです。

イエスは、自分をお遣わしになった神のもとへ行くことが、単なる死や終わりではなく、栄光の復活を意味していることへと弟子たちの目を向けさせようとしていました。しかし弟子たちは、イエスが去ることを、別れや死としてしか捉えません。それゆえイエスは弟子たちに、「あなたがたはだれも、『どこへ行くのか』と尋ねない」と言うのです（ヨハネ 16:5）。

それは私たち人間同士の間でも、大切な人がこの世から去る時、その別れや悲しみばかりに気を取られて、その人がこれから「どこへ行くのか」まで意識を向けることができないのと同じです。

イエスとの別れという状況に沈み込み、悲しみでいっぱいの弟子たちは、別れが何のためであり、救いにとってなぜ必要であるかを考えず、誰もそのことについて尋ねようとしません。

ですが、ここでイエスは逆説的な言葉を弟子たちに伝えます。「しかし、実を言うと、わたしが去って行くのは、あなたがたのためになる」（ヨハネ 16:7）。

これは、原文では「しかし、わたしはあなたがたに真実を言う。わたしが去って行くのは、あなたたちの助けになる」となります。

なぜなら、弟子たちの助け手であり、真理の霊である聖霊は、イエスが父なる神のもとへと去らなければ来ないからです。そして聖霊が来れば、罪について、義について、また、裁きについて、世の誤りを明らかにするのです（ヨハネ 16:8）。

「聖霊」とは本来、神の働きであって、目には見えないものです。しかし、ここでは、弟子たちに降（くだ）り、いつも弟子たちと共にいて、助けてくださる「方」ということを強調して、聖霊について、人格をもつもののように「その方」と呼んでいます。

聖霊は、イエスが神のもとに行ったのちに弟子たちのもとに送られてくる、イエスの代理者です。イエスがいなくなったことを悲しまなくてもよいので

す。イエスが、聖霊において弟子たちのもとに戻って来て、弟子たちはイエスと共にいるのと同じようになるということです。

弟子たちにとって、この聖霊との出会いは、イエスとの別れの悲しみが完全に昇華されるだけではなく、地上のイエスとの出会いと同じくらい、いえ、それ以上のものなのです。

なぜならイエスが去ることによって神の救いのわざは完成し、その救いのわざは、聖霊によって弟子たちの上に及ぶからです。

地上において弟子たちはイエスと出会っても、まだ聖霊は受けていなかったのです。そして真理の霊である聖霊が降（くだ）ることは、弟子たちにいつも新しい約束を与え続けてくれます。それは、イエスの救いのわざが成されるということであり、イエス自身が聖霊において到来することです。

そしてイエスは弟子たちに、今はまだ理解できなくても、聖霊が来る時には、あらゆる真理をことごとく悟ることができるようになるだろうと約束します。

今回私は、イエスのことを証しするのは弟子たちであっても、弟子たちの人間的な努力や能力の問題ではなく、そこには聖霊の力が働くのだということに、ヴィクトール・フランクルのある言葉を思い起こしました。

それは、「人間など、いくら優秀でも大したことはできない。真 [しん] に偉大な業績は、宇宙の力を借りて行う」というものです。

イエス・キリストは、普遍的・象徴的な存在です。イエスと人間との間に起こったことは、人と人との間にも起こるのだと思います。

私たち人間同士でも、物理的にいつも一緒にいるよりも、離れたり別れることによって、結果的には、より大きな力と恵みを与えられるということがあ
るのではないのでしょうか。

そしてその別れの意味は、その時は分からなかったとしても、あとから悟ることができるのです。

イエス・キリストは、私たちの内にある愛を掘り起こしてくれる存在です。

キリストの聖霊は、人に降（くだ）り、人の中にとどまります。

私たちは聖霊において、出会う人を通して、また、キリストに掘り起こされた自分の内なる愛を通して、イエス・キリストに出会うことができるのです。

「言っておきたいことは、まだたくさんあるが、今、あなたがたには理解できない。しかし、その方、すなわち、真理の霊が来ると、あなたがたを導いて真理をことごとく悟らせる」（ヨハネ 16:12-13）。

イエスが私たちにしてくれたこの約束を信じて、私たちは希望と喜びにあふれて、日々を共に歩んで行きましょう。

*** 説教ここまで ***

以下、本日に関連する聖書箇所です。

新約聖書 ローマの信徒への手紙 8 章 22 節—27 節 (新共同訳)

²²被造物がすべて今日まで、共にうめき、共に産みの苦しみを味わっていることを、わたしたちは知っています。²³被造物だけでなく、“霊”の初穂をいただいているわたしたちも、神の子とされること、つまり、体の贖われることを、心の中でうめきながら待ち望んでいます。²⁴わたしたちは、このような希望によって救われているのです。見えるものに対する希望は希望ではありません。現に見ているものをだれがなお望むでしょうか。²⁵わたしたちは、目に見えないものを望んでいるなら、忍耐して待ち望むのです。

²⁶同様に、“霊”も弱いわたしたちを助けてくださいます。わたしたちはどう祈るべきかを知りませんが、“霊”自らが、言葉に表せないうめきをもって執り成してくださるからです。²⁷人の心を見抜く方は、“霊”の思いが何であるかを知っておられます。“霊”は、神の御心に従って、聖なる者たちのために執り成してくださるからです。

教会讃美歌 276 番「ああしたわし」1,2,4 節、289 番「すべてのひとに」1,2,3 節、292 番「重荷をにないて」1,2,3 節、320 番「しあわせなことよ」1,2,4 節、333 番「山べに向かいて」1,2,4 節。